

# 未来につなぐ 伝統行事

各地区・集落でお盆行事

北秋田市には、今もたくさんのお盆行事が残っています。そのいずれもが、地域住民の手によって大切に保存、伝承されてきたものです。行事の多くは、「神事」あるいは「祖先を供養する」ために行われてきました。今年も、8月7日から16日にかけてそれぞれの地区で伝統の行事が行われましたので、そのいくつかをご紹介します。

## 故郷で夏の夜を楽しむ

合川地区では、第38回合川まど火、第29回合川ふるさとまつりが14日、合川橋付近と合川公民館付近を会場に開催されました。昨年は、大雨の影響で合川まど火は中止、ふるさとまつりは合川体育館で行なわれましたが、今年

は晴天に恵まれ、ふるさとまつりは野外で行なわれ、また、まど火は2年ぶりの開催ということもあり、お盆で帰省した人など多くの人が訪れ、ふるさとで夏の夜を楽しみました。

阿仁地区では国の重要無形民俗文化財に指定されている郷土芸能「根子番楽」が14日、2年ぶりに阿仁根子・阿仁公民館根子分館で公開され、地域内外から訪れた市民が伝統の郷土芸能を楽しみました。また、16日には、第47回阿仁の花火と灯籠流し」が阿仁・河川公園で開かれ、夕暮れの薄明かりの中を川面に影を映しながらゆらゆらと流れる約600個の灯籠絵巻と山峡にこだまする割り物花火、スターマイン、造形花火など約3000発の花火との競演が織りなす幽玄の世界に浸りました。

## 2年ぶりに「根子番楽」公開

阿仁地区では国の重要無形民俗文化財に指定されている郷土芸能「根子番楽」が14日、2年ぶりに阿仁根子・阿仁公民館根子分館で公開され、地域内外から訪れた市民が伝統の郷土芸能を楽しみました。

また、16日には、第47回阿仁の花火と灯籠流し」が阿仁・河川公園で開かれ、夕暮れの薄明かりの中を川面に影を映しながらゆらゆらと流れる約600個の灯籠絵巻と山峡にこだまする割り物花火、スターマイン、造形花火など約3000発の花火との競演が織りなす幽玄の世界に浸りました。

## 火がつなぐ地域の絆

森吉地区では、旧暦の七夕行事、第23回森吉山麓たなばた火まつりが7日、阿仁前田河川公園を主会場に開催されました。

日が沈み、あたりが夕間に包まれた午後7時には、祖先の供養と豊作や家内安全など、各地区で地域の願いを込めて作られた10基の絵灯籠が行列となり、集落内をお囃子に合わせて練り歩きました。見物客からは、美しい灯籠絵巻と山峡にこだまする花火との競演を堪能しました。

また、13日には森吉地区では米内沢の獅子踊りが米内沢神社をはじめ町内6カ所で開催され、帰省客などが故郷の伝統芸能を楽しみました。会場のひとつである老人保健施設「もりよし荘」前では、米内沢保育園の子供たちも囃子に合わせて、シッサー、シッサーと元気なかけ声とともに駒踊りを披露し、もりよし荘の入所者や観客の盛んな拍手を浴びていました。

## 地域で子供も大人も一緒に

鷹巣地区ではお盆の13日から15日にかけて、各地区で奴踊り、獅子踊り、駒踊りが行われました。これらの由来は、佐竹氏が常陸の国から秋田入りしたときの行列のようすが原型になっているといわれています。

13日には、前山集落で奴踊り、14日は坊沢集落で昨年雨により中止のため2年ぶりとなる獅子踊り、14日・15日の両日にわたり今泉集落で駒踊りがいずれも小中高生から大人までが一緒になって演じられ、帰省客や地区住民が楽しみました。



「もりよし荘」前で行われた米内沢保育園児による駒踊り



「第23回森吉山麓たなばた火まつり」で会場内を練り歩く絵灯籠



2年ぶりの開催となった「第38回合川まど火」合川橋より



勇壮な米内沢獅子踊り



合川中生も参加の「第29回ふるさとまつり」



未就学児童から老人まで一緒になって演じられた「前山奴踊り」



地元、永安寺の境内で2年ぶりに行われた「坊沢獅子踊り」



お盆に帰省した地元出身者や小学生も参加しての「今泉駒踊り」



重要無形民俗文化財「根子番楽」で演目間に小学生が演じる「花香楽」



第47回阿仁の花火と灯籠流し